

気仙沼市立大谷小学校

2015年 1月 6日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1) 「記録-東日本大震災 被災から前進するために」宮城県気仙沼市立学校長会、気仙沼市教育委員会、宮城教育大学
<http://fukkou.miyakyo-u.ac.jp/report/pdf/kesen1.pdf>

【場所】

海から約350m、学校の道路を挟んで隣に滝根川が流れている。

住所:宮城県気仙沼市本吉町三島28



赤い範囲:気仙沼市

気仙沼市

緑の範囲:大谷小学校

【東日本大震災による被害】

津波により校舎1階、体育館が浸水。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、4～6年生は6校時の授業中で、1～3年生は5校時が終わって下校を開始していたが、多くの児童は教室にまだ残っていた。地震後の14時50分頃、校庭に児童を避難させ、同時にバス停でバスを待っている1年生児童4名の救助に男性職員が向かった。14時55分、大津波警報発令により高台の2次避難場所(公民館)に児童を避難させた。14時56分、児童を迎えに来ている保護者に12名の児童を引き渡した。15時、津波の様子を観測していた教頭より、津波がこちらに向かっているという情報を受け、さらに高い丘の上児童を避難させた。15時20分、津波が学校に襲来。学校の管理下で避難した児童は無事であったが、学校から離れていた児童の内1名が亡くなったことが後に確認された。

また、公民館を津波の避難場所として指定していたが、今回の震災を機に見直し、校舎北側寺谷地区にある高台へ、広い歩道を通して避難することに変更した。(1)

【調査して言えること】

学校は標高約17mの高台にあり、海から約350mの場所にある。また、西側の道路を挟んで滝根川が流れていて、地震の際に津波を警戒する必要がある学校である。校舎上階からは海が見えるかもしれないが、校庭からは公民館のある高台があるため海の様子を見ることは難しい。

2次避難場所の公民館は学校より標高が2mほど高い場所にあるが、学校よりも海に近い場所で、もし津波が到達しそうな場合に次に避難出来る場所が限られているため、津波の避難場所としては適していない。また、公民館から東に200mほどの場所がさらに高台になっており、最大標高24mほどに上がることができるが、こちらも学校よりも海に距離が近く、また次に避難できる場所がないため、津波の避難場所としては適していない。次に、学校校舎北側の寺谷地区に向かう道路が学校の西側にあるが、道なりに400mほど進むと標高30m以上の場所に行くことができ、さらに高い場所へも避難が可能のため、安全な避難経路だと考えられる。

学校の周囲に避難できる高台があり、学校外への避難が可能な学校である。



校舎

公民館学校間の道路(南から見た学校(2014/3/18撮影))

※ 校庭は仮設住宅用の土地として利用されている。



海

公民館学校間の道路(北から見た海(2014/3/18撮影))